

## 2004年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日平成17年1月29日

## I 概要

実践団体・担当者名	あんしんまちづくり：京都市青年団（KCYAC）（担当者：団長 吉村雄之祐）	
連絡先	京都市伏見区上板橋町500-1 吉村酒造気付	
プランタイトル	防災・防犯わらべ唄の制作と普及	
目的	別添（「なぜ防災わらべ唄か」と題した資料）参照のとおり	
プランの概略	<p>団員や連携団体、協力者により、防災・防犯について、聞いただけで子どもが自らを守る足がかりとなるような歌詞についてのテーマを絞り込み 次に大人の目線で歌詞を作成してみる。 その後、防災教育を実践している学級において、主旨を子ども達に説明してもらい、子ども達による歌詞を作成してもらう</p> <p>最後に、覚えやすいような作曲を専門家により作成してもらい、これを実践校などを中心に普及する</p>	
プランの対象と参加人数	歌詞作りからモデル学級（おおむね40～50人）に関わってもらい、	
実施日時	平成17年1月中には、モデル学級において実践する	
主な実施場所	福井県今立町立花筐小学校 ほかを予定	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有
	連携した団体名	福井県今立町立花筐小学校 細川学級
	連携したきっかけ・理由	防災教育の実践を既に行っている学級があり、歌詞を児童に作ってもらう為には必要不可欠であると判断、 ふくい災害ボランティアネット副理事長として活躍する同教諭に本プランを説明し、協働実施のはこびとなった。
	連携団体へのアプローチ方法	普段から交流があったことから実現したもの
	連携団体との打合せ回数	3回（うち2回は福井にて行う）
	連携団体との役割分担	実践に向けた資料提供、実践への支援（都市青年団） 授業実施は細川教諭がこれを行う

## Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	5 名
	外部スタッフの総人数	5 名
	主なメンバーの 役職・役割	総括 吉村雄之祐 歌詞 桐山義章・長峰健太郎・植村育子・吉村延子 岩城眉子・松宮研二 デザイン 山本百合子（デザイナー） 教育 細川かをり・藤田加代
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	平成16年3月 ～平成17年1月
	立案時間	企画会議・打ち合わせ 計8回
	上記のうち打合せ回数	8回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	防災・防犯と言うと狭いようで、実はかなり漠然としており、各人のイメージが大きく異なることから、実践に際しては、何が一番効果的なキーワードなりテーマであるかを協議する事に大部分を費やした。現在においても試行錯誤中である。	
プラン立案で 苦労した点	メンバーそれぞれのもつ「防災防犯わらべ唄」のイメージがあまりにもかけ離れており、また防災優先、防犯優先などテーマについてもまた歌詞にしても「7・5調」「京都のわらべ唄なんだから数え歌に」などと固定イメージがばらばらであり、現在に至るまでもこれらのすりあわせはできていない。結果として各人や各機関の自主性に委ね、現在までに歌詞10点は完成しているが、スタイルはまちまちである。	

## Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	プランと同一
	外部スタッフの総人数	プランと同一
	主なメンバー役職・役割	プランと同一
準備に要した日 数・時間	準備期間	プランと同一
	準備総時間	プランと同一
	上記の内打合せ回数	プランと同一
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	藤田加代（京都教育大学付属小） 細川かをり（福井県今立町立花筐小学校）
	どのように働きかけたか	会合等で主旨を説明し理解を得る
	結果	実践協力を得られた
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人名	なし
	どのように働きかけたか	なし
	結果	なし
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者PTA	なし
	どのように働きかけたか	なし
	結果	なし
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	
	入手先・入手方法	団員・制作関係者からの歌詞の募集
	機材・教材選定の理由	（当団体の実践プランにはなじまない質問項目である）
参加者の募集	募集方法	（当団体の実践プランにはなじまない質問項目である）
	募集期間	年 月 日 ～ 月 日
	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	（当団体の実践プランにはなじまない質問項目である）
	募集方法の失敗点	（当団体の実践プランにはなじまない質問項目である）
準備で苦労した 点・工夫した点		プラン立案と同一

## IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月			
12月			
2004 1月			
2月			
3月	3/19 企画会議		基本方針の策定
4月			
5月	5/27 打ち合わせ		
6月	6/5 企画会議		
7月	7/11 企画会議 7/13 打ち合わせ 新潟豪雨ボランティアで中断	○ 歌詞のすりあわせ方法について ○ 新潟豪雨の為に事業続行の可否を検討 新潟豪雨ボランティアで中断	延期を決定 中断
8月	福井・三重豪雨ボランティア 対応で中断  8/31 うちあわせ	福井・三重豪雨ボランティア対応で中断  ○ さきにMLでチャレンジ撤退の提案が 出るが、災害対応のために一時的に 中断、10月まで延期する事で了承	中断
9月			
10月	10/1 企画会議  20日以後 台風23号災害対応で中断	○ 別件事業の前後にスタッフのみで別途 検討し、歌詞のテーマから子どもになじ みの薄い「テロ」を抜く事など決定。  20日以後 台風23号災害対応で中断	中断
11月	23号災害対応で中断	台風23号災害対応で中断	中断
12月	打ち合わせ（京北町）	○ チャレンジ撤退の提案が再度出るが 福井とのタイアップで歌詞作りだけ でもとりあえず実践する事で了承	
2005 1月	歌詞制作実践 1月12日 普及ツールの開発	○ 福井県今立町立花筐小学校 2時間 ○ ロゴマークの制定	歌詞をテーマ別に 3つ作成

## V 実践の詳細

### 別添

花筐小学校6年生（46名）の実践  
と題した、福井県今立町立花筐小学校細川教諭作成にかかる報告書

および資料（防災わらべ唄児童作品）



## VI実践後

参加者へのアンケート結果	アンケートは実施していない	
成果として得たこと	子どもの柔軟な歌詞発想は、大人の力をはるかに超えている事に、大人である我々が改めて気づいたこと。	
成果物	(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。)	
	<b>別添のとおり</b>	
広報方法	広報した先	
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	朝日新聞・京都新聞・毎日新聞
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	いずれも、開始時の取材であり、成果の取材ではない。
	成功点	
	失敗点	事務上の手違いで実践時の広報を怠ったこと
全体の感想と反省・課題	<p>7月の新潟の集中豪雨、福井豪雨、三重豪雨への京都からの災害ボランティア派遣の中心となり、更に10月の23号台風に伴う京都府災害ボランティアセンター運営にも総力を挙げてこれに参画する事になった事から、わらべ唄づくりは、夏から大きく躓いた。会議においてもメンバーの中には</p> <p>「当団はそもそも災害ボランティア活動を行う為に組織された団体であるはずで、平常時なら『わらべ唄』制作に取り組んでも良いが、今は『有事』であり、呑気にチャレンジプランなどに取り組んでいる余裕はない。報告書作成など煩雑なチャレンジプランから直ちに撤退し、全力を挙げて救援に取り組むべきである」</p> <p>「正直なところ、今はチャレンジプランは『お荷物』だ。そもそもこのチャレンジプランで我々が期待したのは専門家によるMLなどでの助言、教育機関へのコネクション支援、教育委員会などへの紹介、口添えであったが、そのようなものは一切無かった。非常に事務局には不信かつ不満を覚える。災害時だから中止すべき」と言う意見が災害直後より次々に出され、正式に会議や団MLでもこの議論がなされた事は事実である。</p> <p>しかし、議論の結果、本字業は団としても有意義であり、仮にチャレンジプランからの補助金が執行できなくなる次年度以降に作曲などの事業を繰り越しても、全額自費でもわらべ唄制作は行うべきである。との結論に達した。</p>	
今後の予定	来年度以降の進め方	歌詞は集まったが、これを体系的に整える必要がある。作曲・編曲ができていないために、唄として成果を出せていないよって、次年度からは引き続き 歌詞を募り、これを精査・改変する作業に加え作曲、歌唱収録化を行って行く必要がある。
	是非実施してみたい取り組み	